

2021年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(秋期・一般選抜) 問題

専門科目Ⅰ 日本思想史 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

成	
績	

2021年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(秋期・一般選抜) 問題

専門科目Ⅰ (日本思想史 専攻分野)

- 一、今後研究しようとするテーマの思想史学上の研究意義について論じなさい (20行程度)。
- 二、次の①～⑤について簡潔に説明しなさい (各3～4行程度)。
- ① 天神信仰 ② 日本浪漫派 ③ 家永三郎
- ④ 「世界史の哲学」 ⑤ 本覚思想
- 三、次の史料をわかりやすい現代語に直しなさい (40行程度)。

首都の状況にして善良なる時はその影響甚しからざるべきも、これに反せる場合にはその影響甚しかるべし。善は譬へば蠅の如し、流れざるにはあらねども他に及ぼさずしてやむこと多し。悪は譬へば酒精の如し、毫末の間隙をも尋ねて四方に浸漸す。この故に首都の状況の善良ならざるが如きは、いやくも真誠に自ら愛し、真誠に国家民人の福慶を希望するものの決して等閑に附すべからざるところたる也。東京を形づくれる者の中の最も勢力ありし人士等が、都に対する自己の地位を自覚せずして、首都に対する愛重の情念思慮等なかりしは既に説けり。かくて東京は、あたかも後園を愛する念なき新主人のために枝を折り果実を打落し花を採り根を掘りて荒らし棄てられたる後園の如く、無法殺風景不体裁の状況を呈せり。これ皆故意ありてにはあらず、たゞ新主人の無意識の挙動よりして生じたることにはあれど、要するに首都に対する愛情なかりしより一切の忌むべき光景は現出したる也。けだし新に首都に入りて優勝者の地位を占めし人とは、従来皆この東武の一部と親密若くは深厚なる関係を有せざりし人となりしなれば、これらの人々が優勝者の位置に立つてこの東武の一部に臨めるに当り、特に愛情などのあるべくもあらざりしは、一箇の理由ある事なりし也。かつまた僧を悪めば袈裟に及ぶ筆法を以て、徳川氏を倒したる優勝者が徳川氏の長く抛りたるこの地に対して、特に愛情などのあるべくもあらざりしも、また一箇の然もあるべき情態なりし也。これに加ふるに、徳川氏の盛時に当りて彼の川柳氏等が武左と呼び新五左と称して、その礼に嫻はずして我意強きを嘲笑したる人との、優勝者となりて闖入し来れるに遇へる民庶は、劣敗者の地に立ちたるを自覚しながらなほ屈従する事を好まず、やくもすれば反抗とまではなけれども優勝者に対して路

人の看を為せるを以て、かゝる冷淡なる民庶に対しておもしろき感あるべきはずなければ、随つて優勝者よりもまた冷看し、冷淡は冷淡と相酬^{あひかへ}へる折から、この一都に対する愛情の燃え出づるに及ばざりしも、また一箇の理由ある事なりしなり。また、事物の解釈と愛情とは相呼応するものにして、凡て事物は解釈せらるゝに従つて愛情を長じ、愛情を長ずるに伴つて解釈は深められ、解釈せられざれば愛情を惹かず、愛情を存せざれば解釈せられざるものなり。然るに新来の優勝者は不幸にして過去においてははいゆる武左たり新五左たり、未来に対しては自己の位置を自覚するまでの聡明^{ちやうめい}を有し難かりしまゝ、都府その物を能く解釈し去ること能はず、従つてこれを受重する能はざりしも、また無理ならぬ事情なりし也。いはんや新に大都の優勝者となりたりとはいへ、これらの人と多くは寒微の士なりしものから、さすがに自己等が一躍してこの大都の所有者同様の身となりしとは自覚せざりしも宜^{あた}なる事なるをや。

(幸田露伴『一国の首都』より)

受験記号番号

$$\frac{3}{6}$$
This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are approximately 20 lines visible. The paper appears slightly aged or off-white. There is no handwriting or other markings on the page.

受験記号番号

 $\frac{4}{6}$

受験記号番号

5/6

受験記号番号

6/6